

第9回小牧市東部まちづくり審議会 議事録

1 開催日時

令和5年11月21日（火）10時00分から正午まで

2 開催場所

小牧市役所 東庁舎5階 大会議室

3 出席委員（名簿順）

増田 昇（会長）	大阪府立大学名誉教授
和田 貴充	空き家活用株式会社代表取締役 CEO
舟橋 拓馬	一般社団法人小牧青年会議所
田中 秀治	社会福祉法人小牧市社会福祉協議会
秦野 利基	こまき市民活動ネットワーク
森山 晃裕	小牧市小中学校 PTA 連絡協議会
落合 勝之	陶小学校区地域協議会
深堀 修	篠岡学区地域協議会
佐藤 章子	光ヶ丘小学校区地域協議会
小柳 松夫	桃ヶ丘小学校区地域協議会
西尾 貞臣	大城小学校区地域協議会
古園井 直紀	公募委員
原 正行	公募委員
三木 孝行	公募委員
宮脇 稔	公募委員

4 欠席委員

大塚 俊幸（職務代理）	中部大学教授
古池 嘉和	名古屋学院大学教授
横山 幸司	滋賀大学教授
川井 則昌	尾張中央農業協同組合
坪井 和巳	小牧商工会議所

5 出席オブザーバー

愛知県交通対策課
独立行政法人都市再生機構
一般財団法人桃花台センター

6 欠席オブザーバー

愛知県県営住宅管理室

7 事務局

鵜飼 達市	都市政策部長
堀場 武	都市政策部次長
横井 久志	都市政策部東部まちづくり推進室長
丹羽 智則	都市政策部都市計画課長
西島 春恵	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係長
中村 耕一	都市政策部東部まちづくり推進室 専門員
馬庭 貴彦	都市政策部都市計画課 計画係長
林 亮佑	都市政策部東部まちづくり推進室 主査

7 傍聴人数 10名

8 会議内容

1 開会

あいさつ

2 会長及び会長職務代理の選出

3 議事

(1) 東部まちづくりの進捗状況について

(2) その他

4 閉会

■議事録

【事務局】

定刻になりましたので、ただいまより第9回小牧市東部まちづくり審議会を開催させていただきます。

本日はお忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。私は小牧市都市政策部次長の堀場でございます。どうぞよろしく願いいたします。

まず初めに、資料の確認をさせていただきます。

本日の配付資料につきましては、次第の下段に記載してあります資料の1から5と参考資料の1から3でございます。御確認いただきまして、不足等ございましたらお申しつけくださいませ。よろしく願いします。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

ここで御報告申し上げます。

本日の出席委員数は15名でございます。したがって、小牧市東部まちづくり審議会条例第6条第2項の規定により、本会議は成立いたしております。

続きまして、今回の審議会は改選後初めての審議会となりますので、新たに委員になられました皆様を資料1の委員名簿に記載する順に御紹介をさせていただきます。

本日はあいにく欠席ではございますが、尾張中央農業協同組合 川井則昌様。続きまして、一般社団法人小牧青年会議所 舟橋拓馬様。続きまして、小牧市小中学校PTA連絡協議会 森山晃裕様。続きまして、光ヶ丘小学校区地域協議会 佐藤章子様。大城小学校区地域協議会 西尾

貞臣様。続きまして、公募委員選出の古園井直紀様。同じく公募委員で選出の宮脇稔様。皆様、どうぞよろしく申し上げます。

続きまして、会長・会長職務代理についても、改めて選出させていただきます。

まずは、本審議会を運営していくため、会長を選出いただきたいと思っております。

小牧市東部まちづくり審議会条例第5条第1項におきまして、委員の互選により会長を定めることとされております。

委員の皆様、いかがいたしましょうか。

申し上げます。

【小柳委員】

小柳と申します。

指名推選の方法でお願いしたいと思っておりますが、会長には増田委員をお願いしたいと思っております。

増田委員さんは、当審議会の設立当初から会長になっていただきまして、特に構想策定につきましては、大変御尽力をいただいておりますし、御承知のように、泉北ニュータウンの再生にも大きく関わっていらっしゃいます。そういう経験から、引き続いて増田委員を会長にお願いをしたいというふうに推薦を申し上げます。皆さんの御賛同をいただきますことをお願い申し上げます。

【事務局】

ありがとうございます。

ただいま増田委員を会長にとの御発言がございました。

委員の皆様、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

ありがとうございます。

御異議がないようでございますので、会長は増田委員をお願いいたします。よろしく申し上げます。

それでは、増田会長より一言御挨拶をいただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【会 長】

皆さん、おはようございます。

前件に引き続いて会長という大任を仰せつかりました。これまでと同様といたしますか、これまで以上に自由闊達な意見交換をしながら、東部まちづくりが進行しますよう御協力のほど、あるいは御支援のほどよろしく申し上げます。

【事務局】

ありがとうございました。

続きまして、会長の職務代理の選出です。

小牧市東部まちづくり審議会条例第5条第3項において、会長に事故があるときは、会長があ

らかじめ指名する委員がその職務を代理するとあります。これに基づき、増田会長から職務代理の指名をお願いいたします。

【会 長】

それでは、規定によりまして、私のほうから指名ということですので、御指名させていただきたいと思います。

本日はあいにく欠席でございますけれども、これまで2年間職務代理を行っていただきました中部大学教授の大塚委員に引き続きお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ただいま、増田会長より職務代理者には大塚委員が指名されました。本日欠席でございますので、事務局より改めて大塚委員には御報告のほうをさせていただきます。

それでは、以後につきましては、小牧市東部まちづくり審議会条例第5条第2項に基づき、会長が会務を総理することとなっておりますので、増田会長にお願いしたいと思います。会長、よろしくお願いいたします。

【会 長】

それでは、議事の進行をさせていただきたいと思います。

お手元でございます次第のとおり、本日は議題としましては、東部まちづくりの進捗状況についての1題、それとその他が予定されております。次第に従いまして、東部まちづくりの進捗状況について事務局から報告いただいた後、意見交換をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

そうしたら、説明のほどよろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、議題1. 東部まちづくりの進捗状況について御説明させていただきます。

当審議会が設置されて2年8か月、また東部振興構想が策定されてから1年8か月が経過しようとしております。この間、委員の皆様には東部振興構想の策定だけでなく、構想策定後の進め方などにおきましても御議論いただき、様々な御意見を賜ってまいりました。

今後も東部振興構想に掲げる将来像の実現に向け、当審議会の担う役割はより重要になってくるものと考えていますので、引き続き東部地域の状況を把握しながら、今後の展望を見据えた御意見や御提言をいただきたいと、このように考えておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の資料のうち、資料2を御覧ください。

東部まちづくりの進捗状況についてであります。

初めに、左上にありますK P I（重要業績評価指標）についてであります。

東部振興構想では、成果指標として国勢調査より算出した東部地域の生産年齢人口の割合を設定しております。目標値は計画の中間年度となる令和8年度と、計画の最終年度となる令和13年度における数値を定めております。

令和8年度については、国土交通省の将来人口・世帯予測ツールによる将来人口見通しにおける数値であります令和7年推計値の53.0%を1%上昇させた数値としており、また令和13年度に

つきましては、令和12年推計値の48.7%を2%上昇させた数値としております。

令和2年の現状値につきましては、国勢調査の結果から58.3%となりました。令和2年の推計値は57.8%であったことから0.5%高くなったこととなります。

次に、KPIの達成に向けたビジョンごとの参考指標であります。

KPIの実現に向け、注視するビジョンごとの現状値であります。ビジョン1における高齢者、子育て世代、都市インフラ、右側にありますビジョン3における住民活動、これら4つの項目につきましては、現在、本市の最上位計画であります小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画の策定年度であることから、市民意識調査を実施していないため計測が出ておりません。そのため、現状値としましては、バーでの表示となっております。

ビジョン1の次世代が参加するプロジェクト数についてであります。

プロジェクトの中でも、大学生以下の次世代が参加するものを対象としております。基準値及び現状値につきましては3件でございます。

これは市が把握できるものに限っておりますが、具体的には、「東部地域イメージアッププロジェクト」、「こどもマルシェ」、「東部地域の特産物 ぶどうを広くPRしよう」、この3件を計上させていただいております。

続きまして、ビジョン2の農業サポート制度登録者数であります。

これはJAが実施する桃サポーター制度の年間登録者数であり、現状値は46人です。今後はブドウや米など、サポーター制度が確立された場合は、それぞれの制度の累計で算出していくことといたします。

その下段、東部地域における起業・創業に対する補助件数であります。

商工振興課で実施している補助制度のうち、東部地域に関するものの件数であり、現状値としましては15件です。

続いて、右側の表を御覧ください。

ビジョン3の戸建て住宅の空き家数であります。

空き家等実態調査の結果を基に算出し、現状値といたしましては138棟でございます。

小牧市空き家等対策計画では、今後増加すると予測される空き家の数を推計値よりも抑制することを目指していることから、東部振興構想におきましても、同様に空き家の発生抑制や利活用促進などを図り、空き家の数を抑制することとしております。

次に、資料3を御覧ください。

東部まちづくりプラットフォームの構築状況についてであります。

令和4年6月に開設いたしました東部まちづくりプラットフォームですが、その登録者数は令和5年10月末現在108名です。

その内訳としましては、個人の方が99名、事業者・団体として9団体です。

個人の方の年齢層としましては、10歳代、20歳代の方の合計が8名、30歳代、40歳代の方が計29名、50歳代、60歳代の方が計49名、70歳代以上の方が計13名であり、幅広い世代の方に御登録いただいております。

居住地別では、東部地域内の住民が76名、それ以外の市民が11名、市外在住者が12名となっており、地域住民はもとより、東部地域に興味がある地域住民以外の方々にも御登録をいただいているところでございます。

また、事業者・団体としましては、東部地域内が4団体、市内の東部地域以外が4団体、市外

が1団体となっております。

続きまして、裏面を御覧ください。

活動の状況をもう少し詳細にお伝えするために追加の写真を御用意しております。よろしければ、前面のモニターも御覧になりながらお聞きいただければと思います。

東部振興構想及び東部まちづくりプラットフォーム周知についてであります。

周知活動の1つ、講演会の様子について記載をしております。

令和5年6月25日に開催しました桃花台を考える講演会「東部振興構想をどう理解し、どう活かすか」についてであります。

この講演会は、市民活動団体であります桃花台を考える会と、市との協働提案事業における取組の一つとして開催をしたものであります。

当日は143名の方々に御参加いただき、当審議会の増田会長に御講演をいただきました。

第2部としまして、東部まちづくり推進室より、「東部振興構想の展開」というテーマで桃花台を含む東部地域の現状と課題や、東部地域トライアル活動などについて御説明をさせていただきました。

資料左下を御覧ください。

令和5年7月29日、30日、この2日間で開催されました東部地域で最も人が集まります桃花台まつりにおいて、東部振興構想や東部まちづくりプラットフォームの啓発活動を行いました。

連日多くの人でにぎわう中、ブースでのポスター掲示、啓発チラシの配布などを行いました。あわせて、昨年度の東部地域トライアル活動で作成しました東部地域の魅力が詰まったショート動画、こちらを放映するなど、東部地域の魅力発信にも努めたところでございます。

続きまして、資料右上を御覧ください。

東部地域でつながり、やってみようプロジェクトであります。

ワークショップを4月23日、5月7日、5月28日の3回実施をしまして、参加者が活動のテーマや内容を考え、グループを結成し、各グループがトライアル活動を進めておるところでございます。

このワークショップの状況につきましては、次ページにあります東部まちづくり通信にまとめておりますので、またお時間のあるときに御覧いただければと思っております。

各活動の詳細につきましては、後ほど御説明のほうをさせていただきます。

次に、東部地域でのまちづくり活動の促進に向けた取組であります。

(2)に人材育成セミナーの一つ、まちづくりセミナー&マッチング交流会について記載をしております。

令和5年10月28日に開催いたしましたセミナーには、16名の方々が御参加いただきました。

当日は、インスタフォロワー数12万人のDIYクリエイターであるchikoさんを講師にお迎えし、効果的な情報発信の仕方や情報発信からの仲間づくりについて御講義いただきました。

その後、参加者同士の交流を深めるためマッチング交流会と題し、参加者それぞれが意見を交わし、交流を深めていただくことができました。

続いて、3. 今後の予定であります。

12月9日にまちづくり活動の継続・自立化に向けて、「稼ぐ」をテーマとしたセミナーを開催予定としております。稼ぐといっても様々な方法があるため、ワークを取り入れて、活動資金を稼ぐための基礎について楽しく学ぶものでございます。

次に、その他といたしまして、桃花台を考える講演会を令和6年1月21日、東部地域トライアル活動実施報告会を令和6年2月25日に開催予定としております。

続きまして、資料4を御覧ください。

東部地域トライアル活動等の状況についてでございます。

東部振興構想のヴィジョン、取組方針、取組の方向性ごとにまとめたものになります。令和4年度、令和5年度と継続しておりますトライアル活動につきましては、右矢印にて記載をしているところでございます。

トライアル活動の詳細につきましては、次ページより説明をさせていただきますが、2の多様な職業が共存し、持続できるまち、これのうち、新しいビジネスの創出。3.訪れたい、住みたい魅力のあるまち、これのうち、若年世代も住みたい、住まいの創出、こちらの2点につきましては、取組がなされておらず空欄となっております。

今後、事業者との連携や専門的な知識のある方などのお力をお借りし、関係者がつながることによって実施していきたいと、このように考えているところでございます。

次に、令和4年度、令和5年度のトライアル活動について、簡単ではございますが御紹介をさせていただきます。

2ページを御覧ください。

左側、あおぞら市場 in 緑道でございます。

東部地域の既存集落と桃花台ニュータウンの交流促進、高齢者のための買物支援や農家の販路拡大、地産地消の促進を目的に、令和4年度より活動をしてきたところでございます。

令和4年度は11月下旬に1回開催し、400名を超える人が来場いたしました。9時から正午までの開催であったものの、売り切れする出店者が続出いたしました。令和5年度は7月9日に開催をしたほか、11月26日にも開催予定としております。

続きまして、右側、こどもマルシェでございます。

子供たちに様々な社会体験をしてほしい、そんな思いから地域のママなどが中心となり、子供たちが自分のお宝を持ち寄り、販売体験ができる子供が中心のマルシェを令和4年度より開催しております。

令和4年度は大城児童館と連携し12月に開催したところ、500名を超える人が来場いたしました。子供とその親が出店するこどもバザール、ママ・パパバザールのほか、大工体験ができるコーナーや万華鏡作り、シュシュ作り体験などのワークショップコーナーを地域の大人の協力の下、様々な体験ができるよう、児童館全体を使って開催をしたところでございます。

令和5年度は、12月3日に昨年度同様、大城児童館におきまして、児童館と連携して開催するとともに、令和6年3月23日には、下末地区の境内地及び集会所でも開催予定としております。

3ページを御覧ください。

左側、地産地消プラットフォームでございます。

東部地域の農家を間接的に支援するため、地産地消レシピをネット上で募集し、広く発信する地産地消プラットフォーム on-line を1月にオープンいたしました。

令和4年度はオンラインでのレシピ募集のほか、オフラインでの料理作りイベントを3回開催したところでございます。

令和5年度は東部地域の農家と参加者の交流を実現するため、収穫体験からの料理作りイベントを11月25日に開催予定としております。

続きまして、右側、「しのおかの桃を使った商品開発プロジェクト」でございます。

地域の特産物であります「しのおかの桃」の規格外品を使用した商品開発を実施いたしました。

当初は桃を使ったレトルトカレーを検討していましたが、複数の問題が浮上し頓挫したため、マスターズカフェの御協力の下、桃スープのレシピを公開することとし、作り方の動画を発信、またあおぞら市場で試食会を実施いたしました。しかしながら、商品開発はハードルが高かったこともあり、令和5年度の継続事業には至りませんでした。

4ページを御覧ください。

左側、「東部地域の特産物 ぶどうを広くPRしよう」でございます。

小牧のブドウを東部地域以外の人にも知ってもらおうと、ブドウのつるを使ったクリスマスリースを作るワークショップを企画いたしました。

ブドウ農家の協力も得て、令和4年12月11日にワクティブこまきで開催をし、参加しました11組の親子にブドウのクイズやクリスマスリース作りを通じて小牧のブドウのファンになってもらうことができました。また、活動を通して地元のブドウ農家と協力できたことは、大きな成果だと言えます。

しかしながら、活動主体のメンバーが少数であり、諸事情で活動ができなくなってしまったこともあり、令和5年度へ継続ができなかったことが反省点でございます。

続きまして、右側、東部地域イメージアッププロジェクト、動画コンテストおよび大学祭での認知拡大ブース出店でございます。

東部地域の特徴の一つである若年世代の転出超過、これに焦点を当て、若年世代が居住地として東部地域を選択してくれるよう、東部地域の露出度を上げるため、令和4年度はふだん撮影することができないドローンを使用した空撮映像を市の協力を得て発信いたしました。

令和5年度は大学生目線で東部地域の魅力を発信するため、中部大学の学生を対象に動画コンテストを開催予定でございましたが、応募者がなかったことから、大学生がモデルとなったフォトコンテストを開催いたしました。また、東部地域の魅力発信のため、特設サイト及びポスターを作成しました。

大学生向け啓発活動としましては、10月14日、15日、この2日間で名古屋経済大学学園祭にてブースを出展し、11月3日から5日、この3日間で中部大学学園祭にてブースを出展いたしました。

5ページを御覧ください。

左側、フードロス商品開発プロジェクトでございます。

東部地域に事務所を構える社会福祉法人自立の家小牧ワイナリーと東部地域の地元のパン屋であります「パンベル」、小牧市近隣大学である名古屋経済大学、そして小牧市、この4者が連携し、フードロス商品開発プロジェクトを実施しているところでございます。

具体的には、小牧ワイナリーで大量に破棄するワインパミスを使用したパンをパンベルが開発、そのパンを使ったレシピを名古屋経済大学の学生が考案し、そのレシピを小牧ワイナリーのカフェテリアで販売する、このような取組であります。

8月上旬から9月下旬にかけてワインパミスを使用したパンを開発し、11月8日に名古屋経済大学にて、学生向けにプロジェクトの説明会とパンの試食会を開催いたしました。

今後、11月から12月にかけて採用するレシピを決定し、1月から3月にかけて販売開始の予定としております。

続いて右側、Waibeeee マルシェであります。

人口減少、少子高齢化の進行により、まちの活力、にぎわいの低下が懸念される東部地域におきまして、キッチンカーやグルメ物販、ハンドメイドなどのブース出店によるマルシェを未利用地となっております。桃花台線旧車両基地用地で11月25、26、この2日間で開催するものでございます。

また、都市計画上の規制などにより、桃花台ニュータウン内においては飲食店などを立地しづらいという環境を逆手に取り、イベントという形で地域に様々なショップを提供するものでございます。

実施主体の Waibeeee マルシェは、中心市街地のにぎわい広場で月1回程度、金曜日の夜に Waibeeee マルシェを開催しており、そのノウハウを東部地域でも発揮していただき、まちのにぎわいの創出、活力向上に寄与していくことが期待されております。

6ページを御覧ください。

左側、東部地域イメージアッププロジェクト、中学生の郷土愛を熟成するための産学連携支援でございます。

地域に存在する中学生が郷土愛と地域へのつながりを感じつつ、メディアリテラシーの高さを生かした主体的な発信の貢献をしたくなるよう促すため、小牧市を事業エリアとしますCCNet株式会社が持つ映像作成ノウハウなどを中学生へ提供する産学連携をコーディネートしたものでございます。学びを得た中学生が、在学中、または卒業後に東部振興構想を推進する一員として参画することを目標として活動しているものでございます。

続きまして、右側、こちらはトライアル活動ではございませんが、現在、活動しております地域こども食堂でございます。

11月17日の中日新聞にも掲載をされておりましたが、東部地域の南に位置します下末地区におきまして地域こども食堂がオープンしました。地域に住む子育て中のママが、「地域で多様な世代の交流の場所をつくりたい」「子供たちの居場所をつくりたい」「子育て中のママたちが一息つく時間をつくってあげたい」、これらの思いから地域こども食堂を開くことになりました。スタッフは基本、東部地域に在住する人が担い、今はボランティアで活動を実施しているところでございます。

場所は地元の集会所で開催しているものの、調理場所が手狭であることから、小学校の家庭科室をお借りし、調理を実施しています。また、炊飯には地域の飲食店が協力するなど、主催する子育て中のママの思いに賛同する人たちが連携・協力して実施しているところであり、毎月1回、最終金曜日に開催中でございます。

以上、長い説明になりましたが、取組に関してなど、幅広い御意見を頂戴できればと思います。

【会 長】

ありがとうございました。

ただいま丁寧に活動の要するに進捗状況のチェックと活動内容について、資料2、資料3、資料4を用いて報告をいただきました。ありがとうございました。

どこからでも結構です。お気づきの点、評価、こういう点が評価できるのではないかというような応援演説でも結構ですので、御発言いただければと思います。いかがでしょうか。

直接関わられている方もいらっしゃると思いますので、補足説明でも結構やと思うんですけど。

小柳委員、どうぞ。

【小柳委員】

事務局より、説明をいただきまして、かなりたくさん活動を展開しておるなというふうに思っておりますが、私はこの委員でありながら、実は実際にこの活動を一部展開している者として御報告を申し上げますが、実はあおぞら市場の関係で昨年の11月27日に実施しました。天候にも恵まれて大変な人が集まっていたということと、地域の周辺の農家の皆さんが、7台で軽トラ市場をやっていただいたんですが、地元の家庭菜園をやっている人も参加をいただきまして、大変成功したなあというふうに思っています。

これは通り一遍の活動ではなくて、引き続きできる範囲で活動を展開していこうということで進めてまいりましたが、7月9日に本年に入って2回目の開催をいたしました。

当日は大変雨が降って苦勞したんですが、桃の季節でありましたので、農家の皆さんの参加はありませんでした。したがって、どういう形でやったかといいますと、実は農家から私どもが夏野菜を仕入れて、そして販売をさせていただいたということです。

先ほど言いましたように、非常に夏の不安定な時期でありましたので、小学校の体育館をお借りしておりましたが、しかし、出店者は雨が降ってもこの緑道でやるという決意がありましたので、そのまま実施をしました。雨にもかかわらず、250人の方々が集まっていたいき、大変ありがたく思ったしだいです。

これは夏で雨が降り、農家の参加もなかったということで数が少なかったようではありますが、取材に来た方は、もうちょっと多く集まってくれたのではないかとありましたけれども、ただこのときに必要なことは、地域の買物をしてくださる方が、実は交流をするということが非常に大切だということで、すぐそばにある桃ヶ丘会館というところがありますが、ここの大きいホールを開放しまして、ここで買物をした後に休憩所を設けまして、お茶を自由にお飲みくださいというやり方をしました。

先ほどもちょっと話がありましたが、今週の日曜日の11月26日に今年2回目となるあおぞら市場を、農家の皆さんが8台の軽トラの参加をいただきまして実施します。天気予報を見ますとどうやら晴れのようなのでありますので、やれやれという気持ちですけれども、2年目でありますので、まちで会ってもいよいよ参加するぞというような話もいただいて、大変な交流の場になっているというふうに思います。

もう一つは、先ほど言いましたように、ホールを開放して交流会をやりませんが、今回も引き続きやりますが、来場者は、女性が多い状況ですので、やはりお茶だけではいかんということで、ささやかなおかし等も用意して、交流をさらに深めていただくという方法を取りたいなというふうに思っています。

もう一つは、私どもの地域協議会で学校の中の農園を担当させていただいておりますので、これも若干の収穫がありますので、出店していきたいなあというふうに思っています。これも農協さんの御指導をいただいてやっておりますので、問題はないというふうに思っていますが、こんなことで昨年から今年度も計画をして、継続して事業をやらせていただいております。皆さんの協力を本当に感謝申し上げます。以上です。ありがとうございました。

【会 長】

どうもありがとうございました、補足説明ということで。

特に非常に気になるのは、緑道のマルシェ、あおぞら市場を通じて交流が発生するようにと、この辺りの仕組みですよね。マルシェが目的ではなくて手段で、ある意味、交流の活性化みたいな話が主たる目的やというような、そういう設定の仕方って非常にいいなあと思うんですね。

何かイベントばかり追っかけていくとイベントが目的化してしまっていて、本来の目的を忘れてしまったりするので、いかに地域の方々が交流できるかという、その辺りを意識されながら設定をされているというのは非常におもしろいですし、いいことではないかなというふうに思いますので、ありがとうございます。

あとはいかがでしょうか。

今は資料の要するにA3の資料ですね。資料4の2ページ目を用いて補足説明いただいたということでございます。

ほかはいかがでしょうか。

和田委員、どうぞ。

【和田委員】

ありがとうございます。

事業がいろいろ進んでいっているというのは、やっぱりすごいなあというふうに思います。今日も車の中で会長と話をしていたんですが、進んでいないところがやっぱり多くて、大体計画をつくっても止まってしまうというのが、ほかの自治体さんでは、大体絵に描いた餅になってしまうというのがあるんですけれども、特にこの緑道の小柳委員から御説明があったところというのはすごいなあというふうに思っています。

これはトライ&エラーなので、あくまでもトライアルなので、今御報告いただいたとおり、うまくいかなかったやつはしょうがないと思うんですよね。これ別に追いかける必要はないと思っただけで、うまくいっているやつにどんどん集約していったら、このKPIの表が書いてある部分に、まさに今もこれも書いていますけど、複合して達成していけるもんだなあというふうに思っているんで、この成功しているやつはどんどん盛り上げていくという方向が何か僕はすごくいいんじゃないかなというのと、あとはこれに横串を刺せば、もうちょっと大きくなっていくんじゃないかなあというふうに思っています。

さらに、このトライアル活動を進める中で地域こども食堂が現れてきたりとか、これ以外のところで民間がさらにいろんな活動をしていくということもやっぱり出てくるんだなあというふうに思っているんで、そういったところもうまく横串を刺して巻き込んでいってやっていくと。

多分、この緑道のやつも大きくなっていけば、なかなかボランティアの方だけでやるというのは大変になってくると思うので、今日JCさんとかも参加されているので、企業さんをまず巻き込んで一緒に、お金の面もそうですけど、人の面も応援していただくというようなところでやれば非常におもしろい。どんどん広がっていく活動になるんじゃないかなというのと、これ広がっていくとやっぱりメディアにも取り上げられたりとかして、より人が、情報発信ができるというところと、こういうのを逆にPRしていくということも非常に重要だと思いますので、PRをしていくということで、何かこのうまくいっているところから、こどもマルシェもそうですし、そういったところから広げていったらいいんじゃないかなというのと、あとここからボラン

ティアではなかなかできない部分を、企業を巻き込む、もしくは収益化をどんどん考えていくということをやっていくというのが重要なこと。

こども食堂も、月1なんでまだあれなんですけど、大体もうからなくて、ちょっと言い方は悪いんですけど、ボランティアで最初やっているうちはいいんですけど、なかなか手が足りなくなってきたりとかすると、せっかくいい活動が終わってしまったりするので、これも何か農家さんに材料をもらっていったりとか、今の活動からの横のつながりでうまく支援していくということができればいいかなあというふうに思っています。

あと最後、この住まいのところが空白になっているのが僕としては寂しいなと思ひまして、専門家を生かしてというふうに室長がおっしゃっていましたので、一応専門家ですので、また御相談いただければなというふうに思っております。以上です。

【会長】

ありがとうございます。

特に、やはり大事にしたいのが、ある意味持続させていこうと思うとある一定経済が回る必要がある。今回の補助金が、20万とか10万の補助金が2年で終了したときに、補助金がなくなって続けていくためにはやっぱりある一定の収益構造を持たないといけないという、この辺りが1つ大きな御指摘やと思います。重要な視点やと思うんですね。

そのためには、1つはある一定収益性を考えるという話と同時に、事業者の御協力というんですかね。その辺りが非常に重要で、事業者の方も直接的に能力を発揮するとか、機材を発揮するというのと同時に資金的に少しCSR活動として発揮するとか、いろんな支援の仕方があると思うんですね。単純に労働力とか手伝いをするだけではなくて、いろんな企業としての支援の仕方があろうかと思ひますので、その辺りですね、非常に重要な御指摘かと思ひますね。いかに事業所等と、特にこの東部地域は工業団地があり、農業団体がありといういろんな団体がありますので、その辺りをどうマッチングしていくかという、その辺りが大きな課題になろうかと思ひますね。ありがとうございます。

何か事業者サイドで御発言ありますか。いかがでしょう。そういうチャンスがあったら、どんどん広報してくれとか、その辺は何かいかがでしょうかね。少し事業所のところで、青年会議所さんもおみえになると思ひますが、何か御発言ございますか。いかがでしょう。どなたでも結構ですから。

はい、どうぞ。

【和田委員】

補足といいますか、ちょっとこの空白になっているところが、新規ビジネスというのもやっぱりあって、起業とかソーシャルビジネスとか、こういったところもあるので、うまく空白になっているところを複合させて新たなチャレンジをしていく、トライアルをしていくというのがそうかなというのと、僕は大きな企業様よりやっぱり地元で一生懸命頑張っている企業さんに何か応援していただく、もしくは一緒にやっていただくというのがいいのかなあ。

僕の職人の友人が大阪でやっているのは、こどもマルシェのような、いわゆる職業体験みたいなものを行っています。職人さんって非常に今人が足りないの、これ大工体験とか書いていましたけれども、左官屋さんとか電気屋さんとか水道屋さんとか、下水工事のショベルカーを持つ

てきたりとか、そういうのを鶴見緑地の会場を借りて毎年1回やっているんですが、大阪中から10校の生徒さんとか巻き込んでいるので1,000人ぐらい来るんですね。いわゆるキッズニアみたいなものを、町の企業さんが自分たちの仕事をアピールすると。実際にショベルカーに乗ってもらおうとか、配管をつないでもらおうとか、これで水道の仕組みを知っていただいたりとかいうのを、何かどこかで一緒にやる。

この緑道のところに人がやっぱり集まるので、この集まる場所にそういう機会も一緒に入れてやってみたりすると、企業さんも地元のお子さんや家族にも、生活者にもアピールできますし、そういったところで自分たちの人材確保みたいなのところにも実はつながっていったりとかするので、補足ですけど、そういうところで事業者さんも自分たちのプラスになる部分と地域にプラスになる部分と、三方よし、四方よしになるような、何かそういったことができるんじゃないかなと思います。

【会長】

ありがとうございます。

先ほど、横串あるいは各プロジェクト間の連携、この辺りはいかがなんでしょう。プロジェクトが発生するとプロジェクト単位の会議ばかりになってしまうのか、定期的にプロジェクト代表者間の交流会議みたいなやつは開催されているんでしょうか。

その辺、事務局いかがでしょうかね。はい、どうぞ。

【事務局】

定期的な会議というのは特に設けてはいないですけれども、ただプロジェクト間の連携というのは全く取れないことはないというふうに考えておりますので、その辺りはうまく連携を取りながらやっていけたらいいなというふうに思っておりますが。

【会長】

はい、ありがとうございます。

小柳委員も発言いただいておりますので、はい、どうぞ。

【小柳委員】

私が先ほどあおぞら市場の関係で、年2回ほどしかやれないんですけれども、これなかなか農家さんも繁忙期があって、桃なんかのときは、おいちょっと待ってくれよという話なんですけれども、これも協力を得ながら仕入れして販売したということがあります。

こういうやり方があるなということで夏に今年は1回実施しました。

また別の取組として実は私、もう3回になりますけれども、そばにある中学校の外国籍の子供たちと3年間座談会をやっています。大変外国籍だからと構えてじゃなくて、ここに住んでよかったということ、何か気がついたこと、自分たちでできること、これからやりたいこと、そういうテーマでお話しするんですけれども、本当に限られた、中学校には50人ぐらい外国籍の子供さんがおります。外国籍といっても日本で生まれた方もおりますけど、外国にルーツを持つ子供が50名おられます。その中の12名ぐらいの参加をいただいて、学校で取りまとめてもらって実施しているんですが、今年も先週の14日にやりました。

今、課題と思っていることは、御父兄をどうやって連携していこうかということです。今年は我々からのメッセージと雑貨の粗品を添えて、お父さん、お母さんに渡してくれということをやっています。この結果どのような形になるかをちょっと言葉は悪いけど追跡をさせてもらおうかなあというふうに思っています。

また、この子たちが、あおぞら市場にどうやって参加をしてくれるような仕組み、お手伝いをしてくれるような形を取るか、そんな体制ができると、ちょっとおもしろいんじゃないかなというふうに思っています。

そういう中で、地域の中で交流をさらにあおぞら市場を通じて進めていくと。今回は、大学生等が実施している別のトライアル活動の東部地域イメージアッププロジェクトが参加してくれて、東部地域の様々な場所で撮影したフォトをハイエースに貼りつけて、東部地域のよいところを PR してもらいます。ほかにも、竹細工をやっている人が販売に来てくれますので、そういう中で輪が広がっていけば私たちの負担も少しずつ少なくなるかなと思っています。

【会 長】

ありがとうございます。

ぜひともプロジェクトリーダー間の情報交流とか、どうしたら共同開催できるとか、そういうことも探っていただけると。

私が今活動しているところの子ども食堂でやっていることの一つは、農家と連携して、隠れフードロスと言われる形が悪いとかいう出荷できない農作物って結構あるんですね。それを子ども食堂に寄附いただくような、生産者と子ども食堂とのマッチングとか、子ども食堂、せっかく集まっていたので、その帰りにマルシェを共同開催したらマルシェのお客さんもかなり確保できるというような共同開催をしたりとか、そういうマッチングですよ。そういうことがどんどん増えていくと、さらに連携が深まっていくのではないかなあと思います。ありがとうございました。

あとは外国籍の方に関しては、これよく言うのは子供の言葉のハンディというのは比較的学習能力が早いんですね、子供って。ただし、保護者の方がなかなかついてこなくて、保護者の言葉のほうをどうするのかという、そういう仕組みが非常に重要になってくるんだろうと思うんですけどね。子供は早いです。本当にあっという間に学習しますので、むしろ子供を通じて御両親の翻訳をしてもらわなあかんような感じになるぐらいやと思うんですけどね。

【小柳委員】

何回も発言して申し訳ないんですけども、会長がおっしゃるように、先日の外国籍の生徒との座談会に参加された生徒は日本語はもう万能でした。しかし、その生徒さんのお父さん、お母さんは片言しか言えないということで、日常生活どうしているのかと聞くと、私が通訳も代わりにやっていますと、こういう話なんですよね。

昨日も立ち番で交通安全のお手伝いをしていたのですが、そういう子が家庭から学校へ登校するときにも、顔を見るとにやっと笑ってくれるんですね。で挨拶してくれるんですけど、こういう関係で少しずつ少しずつ子供たちとも交流していけばいいんじゃないかなという思いをしています。

先ほど言いましたけど、お父さん、お母さんにも子供さんを通じてもう少し柔らかく交流がで

できればなあというふうに、そんな思いで今おりますけれども。

【会 長】

はい、分かりました。ありがとうございます。

事務局。はい、どうぞ。

【事務局】

すみません。

先ほど、リーダー間の情報交換というお話がありましたけれども、私、すみません。そういった場はということをお願いしてしまいましたが、資料の3の2ページのほうですが、右下のほうにその他というのがございまして、今年度は令和6年の2月25日に開催予定としておりますトライアル活動の実施報告会、こちらのほうで各グループが行った活動の報告と併せて、その後いろいろな意見交換というか、各活動に対する応援という意味も込めましていろいろな発言をいただきまして意見交流会ができる、そういった場を設けておるといってもございまして、その内容が先ほどの答えになるかなということです。

【会 長】

なるほど、分かりました。

もっと初期の段階でもいいと思うんです。開催するときと一緒に共同開催できませんかみたいなところの機会が発生すればいいなあというようなことやと思うんですけれども。

はい、事務局いかがでしょう。

【事務局】

その点にございまして、現在、プラットフォームにおいて、LINEのオープンチャットでの情報共有を進めております。対面ではないですが、情報共有というものは、可能かなあというふうに思っています。

【会 長】

極力、活動というのは自己完結せずに、手を挙げて応援してくださいというのを積極的にアピールすると。そうすると、乗っかっていきたいグループとか、連携できる、お互いに足らんところが分かりますので、今までの活動ってどちらかという自立して自分らが頑張るんやという、両肩にすごい荷物を背負っているような活動をしていたんですけれども、これからの活動というのは、どちらかという万歳して自分らでできる範囲ここまでで、万歳して足りないところを助けてくださいという、何かそういうことが一つの大きなきっかけづくりになっていこうかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。どうでしょうか。

はい、落合委員、どうぞ。

【落合委員】

こども食堂のことについて、これ下末地区で実施していることですが、これはプレオープンの

際に私も参加させていただきました。一番に考えられるは中心になるメンバーね。若いママさんが中心になられて、すごい情熱を持って、もうどこへでも交渉に行くといったらあれですけど、頼みにいきますし、書道塾かやってみえて子供さんが大分通ってみえて、ある程度の人数的な子供さんが、夕方に集まります。書道塾でベースはもともとあったところで、地域の中の、これ地域の役員か何かをやられたときにいろんなことを感じて、やっぱり独りだけの高齢者とか、そういう人は独りで夕飯を食べるのは寂しいわとか、そういうようなことを聞かれて、これは子供さんと、それから地域の高齢者ね。たまたま下末地区のお宮さんの敷地内に集会所として参集殿という建物があります。大きい公民館みたいなものです。その場を使ってやりたいと。そこへまた学校のほうも協力して、地域ぐるみで協力するというようなことで、第1回のときに出たんですけども、いろんな会議に出ても、これは行けるなと確信を持つ事業は少ないですけども、このこども食堂に出たときに、これは成功するというより続くなと、もっと利用者が増えてくるなというように思ったんですね。

そういう誰か情熱のすごいある人が、引っ張っていくような形でまとめてという例なんですよ。こういうすごい人を発掘するといったらいいのか、探したり、またほかのことにも協力してもらったりするともっとすごくなるんじゃないかなということで、自分たちも同じ地域におりますので、これは本当にできるなあ、すごいな、熱があるなという形で始まって今4回目だと思いますので、ここの東部まちづくりにも、何かのふうで取り入れていくなり、応援していくなりしていただければありがたいなあと思います。以上です。

【会長】

なるほど。ありがとうございます。

中心的な人が出てくると、やはり今御発言いただいたように地域で盛り上げていくというふうなことが非常に重要かと思うんですね。御発言ありがとうございます。

ほか、いかがでしょう。

和田委員、どうぞ。

【和田委員】

何回もすみません。

今の落合委員のお話ですごくいいなと思ったのは、お子さんももちろんこども食堂もそうなんですけど、やっぱり単身高齢者の方が一緒に複合させていくというの、これはむちゃくちゃいいなあと。そこに子供たちとおばあちゃん、おじいちゃんのコミュニケーションが生まれるというのが、やっぱり教育とか、そういったものにもつながっていくでしょうし、まずこども食堂に子供たちが集まるということからの、例えばそれが塾に発展するかもしれないですし、例えばそういう場づくりがどんどん出てくることによって、先ほどの外国のお子さんの話もそうですが、そういったところにどんどん一緒に来てコミュニケーションを一緒に生ませていくというのが、ごった煮じゃないですけど、いろんな人が来ればいろんなことが起きる。何かそういういい場にいろんな人たちが寄ってくるというのはいいなというのと、何かそこでひょっとしたらまたアイデアが、こんなことしよう、もっとこういうことをしようというアイデアが、子供たちやいろんな人たちから生まれてくるというのがあるので、そういうのも御飯を食べながら積極的に出して、こういう人だったら、こういうことだったらあの人を連れてこよう、この人を連れてこ

よう、これがまた生まれてくると思うんで、せっかく集まってお話をする、楽しく会話をしていく、そこに高齢者の方も来る、お母さん、お父さんも来る。その人たちをいかに巻き込んで、次のマルシェに突っ込むとか、何かそういうのをやれる場になるんじゃないかなあというふうに思います。

なので、本来は、参集殿も全然いいと思うんですけど、桃花台の空き家を1戸そういう場にできたら一番いいなというのを何かちょっと思ったりするので、何か使っていないところで貸してくれそうとか、ただで使ってよみたいな、そういうのがあったらいいなあというのは思いました。以上です。

【会 長】

ありがとうございます。

最後の発言ですけど、住宅のところがないのが寂しいという話がありましたけど、やはり公営住宅なり公的住宅の賃貸の中で空き家の活用であったりとかも期待するところですが、このこども食堂がいいなあと思うのは、小学校が家庭科室を開放していると。これなかなか教育委員会って今まで地域開放というのに非常に消極的やったのが、こういう形で地域へ貢献できるような施設になっていっているというのは非常にいいことで、いろんな手持ちの活用できる資源がいっぱいあるんですけど、いろんな壁があってなかなか活用できないということに対して、少し敷居を下げたら活動拠点になり得ますよという、どうやったら敷居をちょっと下げられるだろうかというような目線で見えていただくというのが非常に重要かと思えますね。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。どうでしょうか。

ちょっと私のほうから1点、質問というか、新交通システムのところの空き地というのがあって、いろんな意味でトライアル、あるいは実験的にということですけども、資料4の5ページ目ですかね。

ここで Waibeeee マルシェというのが桃花台の旧車両基地用地で開催されるという、この辺りというのは皆さん、あの用地どう使っていくだろうかという話で非常に気になっていると思うんですけど、これから、いろんな意味で空き地とか考え方というのはかなり柔らかく考えて、暫定的な利用というふうなことを怖がらずに、既得権益化するというのでみんな嫌がるんですけど、そうではなくていかに暫定利用を積み重ねていって恒久的な利用の在り方を探っていくかと、そういうトライアルって非常に大事で、そういうことをやっていただけるとことですので、少しこれは県さんも御協力いただいていると思うんですけど、県の御担当の方で少し御発言いただければと思うんですけども、いかがでしょうか。

【愛知県交通対策課】

愛知県交通対策課でございます。

今、会長からお話のありました Waibeeee のマルシェのトライアル活動ですけども、これを桃花台の旧車両基地用地の未利用部分を使って実施されるということでございます。また、この後、事務局のほうから車両基地用地の今の利活用の検討についてもお話があると思えますけれども、現在、県と市で桃花台線の旧車両基地用地利活用推進会議というのを立ち上げておまして、将来的なこの未利用地の利活用について一から議論しているところでございますので、今会長からいただいたこういった未利用地の利活用方法についても、参考にしながら引き続き車両基地用地

の有効的な利活用について議論して検討してまいりたいというふうに考えております。

【会 長】

ありがとうございます。

事務局、何か資料を配られていますけど、補足資料、今の県から御紹介いただいたように市から補足の説明をとということですけれども、事務局、よろしいでしょうか、何か。

【事務局】

議題、その他のほうで説明を予定しておりますが、どういたしましょうか。

【会 長】

今の流れで、連続的に説明をいただけますかね。

【事務局】

分かりました。

それでは、桃花台線旧車両基地用地の利活用に向けまして、今お話がありましたけれども、今現在、愛知県と小牧市のほうで検討を進めておりますので、資料5と参考資料2を用いて御報告のほうをさせていただきたいと思えます。

初めに、資料5のほうを御覧ください。

桃花台線旧車両基地用地の経緯について、まずは御説明をさせていただきます。

当該用地につきましては、2009年2月に桃花台新交通株式会社が特別清算を行った際、貸付金債権の代物弁済として愛知県及び小牧市が取得し、共有財産となったものでございます。

次に、現在の利活用状況について御説明をいたします。

これまでの利活用については、平成22年、平成23年に提出いただきました地元要望を踏まえ、活用を進めてまいりました。

資料中央の図を御覧ください。

青色の部分は月ぎめ駐車場として、黄色の部分はパーク・アンド・ライド駐車場として、土地貸付けにより名鉄協商の運営で活用をしているところでございます。また、紫色の部分につきましては、小牧市がロータリーを設置し交通結節機能の強化を図ってまいりました。

敷地面積は3万3,778.1平方メートル、これのうち現在利活用している面積につきましては1万4,532.73平方メートルであり、未利用地の面積は1万9,245.37平方メートルであります。

このように、地元要望に沿って一定の利活用は図ってきましたが、未利用地が多くある状況であり、この未利用地を有効活用していくため、現在、愛知県と小牧市において検討を進めているというところでございます。

続きまして、最下段、3のさらなる利活用に向けてを御覧ください。

現在の検討状況でございますけれども、東部振興構想が策定されたこともあり、さらなる利活用の検討を目的に、先ほどお話が出ましたが、令和4年2月に愛知県及び小牧市の関係部署で構成する桃花台線旧車両基地用地利活用推進会議を設置いたしました。

主な考え方としましては、地元ニーズ及び東部振興構想を踏まえた利活用であり、また民間活力の導入を検討することで、その手法につきましては、売却、貸付け、PPP/PFIなど、

様々な方策を検討することとしております。

次に、参考資料2を御覧ください。

さきに説明しましたとおり、地元ニーズを把握する必要がありますが、地元要望が提出されてから10年以上の月日が経過していることから、アンケート調査を実施いたしました。このアンケートは、時期を同じくして進めております桃花台地区内の土地利用検討などに伴う都市計画マスタープランの改定におけるアンケート調査の中で実施したものであります。

それでは、参考資料2の42ページを御覧ください。

こちらが桃花台線旧車両基地用地の利活用の方向性についての集計ということになります。

結果としては、スーパーや飲食店など商業用地についての活用を希望する方の割合が最も高く61.1%、続きまして、介護老人保健施設、個人病院などの医療福祉用地としての活用が55.7%と高い状況となっているところでございます。年代別では、全世代で商業用地としての利用が高い傾向で、年齢が上がるにつれて医療福祉用地としての活用を希望する方の割合が高くなっている状況でございます。

次に、参考資料3を御覧ください。

民間活力の導入についてであります。国が実施するサウンディング調査に参加をいたしました。これは国土交通省が地方公共団体と民間事業者の意見交換を行う場を設けることにより官民連携事業に取り組む地方公共団体を支援するものでございます。

11月9日にオンラインによる対話を実施され、全7者と意見交換を行いました。今回のサウンディングでは具体的なお話があったというのではなく、この土地の可能性や課題などの御意見をいただいたものでございます。御意見の中には、利活用に向けた課題としまして、出入口が1か所に限定されている接合条件が上げられていました。

引き続き、今回のアンケート調査で得られた結果などを踏まえながら、民間事業者との対話の機会を再度設けるなど利活用の検討を進めてまいりたいと考えており、その検討状況の進捗に合わせ当審議会でも御意見を伺いたいと、このように考えておりますのでよろしくお願いいたします。

【会 長】

ありがとうございました。

構想をつくっているときから皆さん気になっている旧車両基地用地、どう展開していくのかというようなことで、県あるいは市と今補足説明をいただきました。どうもありがとうございました。

私が今泉北でやっていて、参考に少しお話をさせていただくと、こういうアンケートをやると必ず商業施設あるいは介護施設というのが出てくるんですね。泉北でどういうことが起こったかという、近隣センターの再生に対して、よろず屋方式でないとは今後は駄目ですよみたいなプランを出したんですね。今までの近隣センターというのは商業機能中心やったんですけども、今後は商業機能中心の施設はしんどくなってくるでしょうと。よろず屋ですという概念を出して、それが実態としてどういうことが起こったかという、近隣センターに老人介護施設が入ったんですね。入ろうとしたんですね。その際に、センターの商業主、あるいは地元自治会から、老人介護施設の入居者は買い物難民になっていくので老人介護施設を認めないみたいな運動が起こったんですね。そのときにどういうことが起こったかという、その老人介護施設は非常に頭が軟

らかくて、1階にコミュニティカフェ、それと要するによろず販売店、これを兼ねて展開したと。その結果、老人介護施設に入所している人と、要するに地域の方々がそのコミュニティカフェで交流できるという相乗効果が生まれたりして成功しているんですね。

多分、これからは単一機能で何かをやりましょうという話ではなくて、複合的な機能の重要性みたいなやつをよろず屋と呼んだんですけど、そんな話ですね。そういうこともアンケートではなかなか出てこない辺りですね。

その辺りをぜひともこれから考えていただければというのが1つと、もう一つは、やっぱりヨーロッパでも近隣センターがどんどん衰退してシャッター街になっていって、結局その再生をしている。これフランスの事例なんですけど、商業施設等を全部解体して、まず広場化する。そこに覆い屋だけを造って、初期投資を最低限に抑えて覆い屋だけ造って、その中が日本でいう屋台村になると。そういう仮設利用を通じて商業施設が本当に立地していくのかどうかみたいな、5年、10年仮設利用を展開していくみたいな、そんなやり方ですね。今までみたいな非常に固い日本のマスタープラン方式ではなく、動き歩きながら方向性を見定めていくみたいな、何かそんなことをこれから考えていかないと、従来どおりの方法論ではなかなかしんどいということやと思うんですけどね。ちょっと参考までに、この件に関しては。

ほか、いかがでしょうか。

先にその他、御説明ありましたが、全ての資料に関してということではいかがでしょうか。

はい、落合委員、どうぞ。

【落合委員】

この新交通の車両基地の跡地ですけれども、これ3ヘクタールぐらいの面積で、大体小学校が2ヘクタールぐらいで中学校が4ヘクタールぐらいということで、そのちょうど中間ぐらいの大きさで、大変大きい土地です。こういうニュータウンになって、こんな土地が清算後に残るはずがないんだわね。たまたま新交通が潰れてできただけのことで、こんな土地は空き地にしておいて、50年先か100年先の人達が有効利用してくれればいい話で、県が93%で市は6%しかないということになると、これらに対して基本的に土地の持ちようやね。これはニュータウンになれば、ニュータウンは全部地元、小・中学校なら市に、道路でも国道は国道、県道は県道、市道は市道で全部引き継いでいるんで、何にも余剰地は残らないのが普通。

だから、そこら辺のことから考えると、ここは未利用地のままずっと残しておいて、将来何かあったときに桃花台の人が使うという使い方じゃないといけないと思う。県と市が貸付して名鉄協商が駐車場運営をしているが、県も市もお金もらっておるかな。桃花台センターが管理しておった用地もあるけれども、そうすると今この土地に物を造るといったって、老人ホームを造るとか福祉施設を造るより空き地として持っていないと、それで公園とか緑地ね、それと同じような性格のものだと思う。とにかく新交通が潰れて、これは飛び離れたところの一等地にあるので、これはこのまま残しておくべきだと思う。それを利用しようと思うから話がややこしくなるだけであって、例えば先ほどのあった桃の話が出たが、結局、桃花台の地名でも、桃花台というのは桃の実があったわけだし、花がいっぱい咲いておったもんで桃花台って名前をつけた。今、桃花台周辺の空き地だとかこういうところへ全部桃の木を植えて花を見るとかね。それで暫定利用するなり、空き地対策でも、ただ何かやろうと思うから大変な手間暇かかるけれども、そういうようなおおらかな感じで残しておくよと。誰が何も指をささないと思う。そういうふうにしてい

けるといいなと思いますけれども。ちょっと余談になりましたけど。

【会 長】

ありがとうございます。

これは、ニュータウンの非常に欠点がりザーブ用地をなかなか持てなかったと。かなり全てを利用処分したと。幸いなことに、こういう用地が発生して非常に貴重な財産で。だから、一つはそれを分割して処分せずに、何らかの意味でりザーブ的に用地を担保するというのも一つの考え方だと思うんですね。だから、そういう考え方も、多様な考え方を入れて今後詰めていっていただければと。一律的な考え方じゃなしに考えていただければと思いますね。

ニュータウン計画、いろいろお手伝いしてきて一つの難点は、全ての土地利用が非常に全部決められているというのがニュータウンの一つの欠点なんですね。普通のまちには、いろんな意味で空き地があったりとか、いろんなところがあって自立更新する仕組みを持っているんですけど、ニュータウンというのは、その仕組みを持っていないんですね。それはりザーブという考え方が採れなかったということがあるので、ある意味、御発言いただいたことも一つの選択肢的なことで、ぜひとも議論をしていただければと思います。ありがとうございました。

小柳委員、どうぞ。

【小柳委員】

新交通の跡地の利用は大事だなと思っていますが、今お話があったのは、こういう 25、26 日、キッチンカーを中心にしてやられるんですね。これは僕も関心を持っています。交通問題も含めてどれだけの方が集まってくれるかということがちょっと心配なんです。駐車場は設けているみたいですが、場所がわかりにくい。ですから、ある程度の人に行くかも分かりますがどの程度集客するか関心を持っています。

実は僕たちのあおぞら市場の中でも、こういう話を私のところに持ちかけてきたんです。一緒に協働して実施したらどうかと。近い将来はいいかも分かんないけど、今回は勘弁してくれと。

今後のあおぞら市場も野菜や果物ばかり販売するんじゃなくて、多種多様な出店者があれば、可能な限り受け入れて多くの人たちが利用できるように、参加できるようにしていきたい。

先ほど会長さんがおっしゃったように、僕たちは協力者を募るのに、手を挙げたいぐらいです。さっきの地域こども食堂の話も相談に来ました、この方がやりたかったんですね。やりたいということで、ちょっと待ってくれという話をしたんですけども。今のところ、はっきり言って体が2つぐらいないと対応できないというところ。これからは参加する人の責任でやっていただけるように、そういう段取りをしていく必要があるなど。だから、僕たちもこういう受入れをこうしたいなというふうに思っています。

もう一つは、学校とのつながりが非常に僕のところは強いんですね。ボランティアで中へ入っています。そういう中で考えるのは、学校をもうちょっと、今すぐというわけにはいかんですけど、近い将来には学校をもう少し地域のこういう活動について使えるような方向づけをしていくことにならるかというようなことを今考えています。生徒はどんどん減っていますから。

【会 長】

分かりました。ありがとうございました。

学校に関しましては、今、クラブ活動、これは要するに先生の労働環境の関係で地域に依存しないとクラブ活動ができなくなる、これは体育会系だけではなくて音楽系とか文系もそう。そうすると、教育委員会は抜本的に発想転換をしないと、今までみたいに地域とあまり連携せずに教育委員会を運営していると、誰も手伝ってくれないと、放課後の要するにクラブ活動を。

だから、いろんなクラブ活動をしようと思うと、地域のスポーツ教室やとか、音楽教室やとか、そういうことと連携せざるを得ないというのが、もうじきもっと明確に方針として文科省から出されてくると思うんですね。

そういう面では、要するに教育委員会もある意味発想転換をしないと、地域と連携しない限り活動が低下してしまうということになりますので、大いに期待できると思いますけどね。

もう一つ余分な話ですけど、同じ日にイベント開催したときのバッティングの問題をどう解消するかと。私もたまたま活動しているところで、駅前の活動と公園の活動があってどうしましょうと。結局、どういう解決方法を探ったかというスタンプラリー。駅前の活動と公園の活動、3つずつスタンプを集めたら賞品を出しますみたいな、両方ともに行ってもらおうというような、そんな機会もありますので、同日開催のときには、そんなスタンプラリーみたいなやつも非常に大事かと思います。

すみません、しゃべり過ぎたかもしれません。

ほかいかがでしょう。どうでしょうか。

はい。

【和田委員】

この土地、今、お二方のお話もありましたし、会長の話もあったんですけど、僕、基本的にハードから入るのは反対だと思っています。やっぱりソフトが大事で、建物を建てて解決するという時代ではないと思います。この敷地自体がフレキシブルに使えるというのがやっぱり重要なと、自由自在に使えるかというのが。だから、これは100年残しても全然本当にいいと思いますし。

ただ、あるんだったら、ここをチャレンジングに使っていくということは重要なところ、それを誰が運用していくかというのが課題かなと思います。

例えば民間のところを音頭を取って事務局的なところで、この土地をどんどん周りに発信して、リース、レンタルできるみたいな形で収益を回していくということも、これだけ大きければできると思うんです。

なので、これを市がやる、県がやるというふうになってくると、検討で結構遅くなってしまったりする可能性があるんで、うまく民間と官民連携しながら、収益も民間に上げてもらいつつチャレンジするレンタル、貸すということですね。あと、この売却も絶対やめたほうがいいなと思います。もったいないと思います。切り売りとかはあまりしないほうがいいんじゃないかなあと思います。

住宅街の中なので、結構近隣の方に御迷惑がかかるようなものは持ってきにくいんですけど、あえてそういうものもチャレンジしてみるというのは一つかなあと。

例えば、これだけ敷地があるんだったら、今、ドローンの国家試験があったりとかするので、その練習する場所というのも一つでしょうし、あとは今、スケートボードとか、ああいうストリートスポーツがはやっていますから、そういう場所は多分みんな求めています。そういうスト

リートスポーツ、結構危ないんですけど、危ないんだけど安全に遊べる場所とか、3 on 3 みたいなものもあったりとか、バスケも最近はやっていますし。こういう町なかでやるスポーツというのがやれる場所がなかったりしますと。

あと、ラジコンとかも、結構マニアックなんですけど、ラジコンを走らせる場所がないとかですね。こういうのをやると結構人が集まってきて、お金を払って、1時間 2,000 円とか払って利用されたりしますから。屋台村みたいなカフェを、キッチンカーを連れてきてとか、何台も連れてきたりとかですね。あと、キッチンカーがあったらイベントの関係性をうまくつくる。これっていろんな企業が考えたりしてくれますので。あとは謎解きとか、何でもあります。

何せ人が集まる可能性のあるものというのは世の中に五万とありますので、そういうのをこういう場所でやってみて、実際にやりながら、これははまるな、もしくはこれ人口が増えるな、これ地域の人が喜ぶなというのを探し続けるというのが大事かなと。若者向けじゃなくて高齢者の方、あとは主婦層、ママさんの方みたいな人たちが楽しめる場みたいなのをやっぱりやっていくべきかなあとは思います。以上です。

【会 長】

分かりました。

いかがでしょうか。大体よろしいでしょうか、その他を残して。

(挙手する者なし)

私から、二、三お聞きしたい点があって、資料における新規ビジネスが6件ですけど15件というのが、ここで創業とか新規事業があるというので補助件数15件と。これは目標よりも超えているんですね。超えていてよかったねじゃなしに、どんな事業がここで新規に展開しているのかと。

その可能性みたいな話が1点と、もう一つは戸建て住宅の空き家数、166棟あったのが138棟に減っていると。これは一体どういうことと理解するのかと。割と進捗管理していくときに、うまくいってないものに関しては課題認識で、原因追求するんですけど、うまくいっているやつは原因追求しないんですね。それだけどううまくいっているやつは、なぜうまくいっているのかとか、どういう方向性が発生しているのかというのをちょっと最後にお聞きをしておきたいなと思うんですけど、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

【事務局】

新規ビジネスの基準値が6件に対して現状値15件という形で増えていることの要因につきましては、そこまで分析ができておらず、説明ができず申し訳ございません。詳細を分析させていただきます。

もう一つ、ヴィジョン3の住まいのほうにつきましては、166棟が138棟という形になっております。これは、東部地域ですと、桃花台ニュータウンと、あと既存集落という形で分かれているところがございますけれども、桃花台ニュータウンにつきましては、内訳でいきますと、こちらで15棟減、既存集落のほうにつきましては13棟減と、合わせて28棟減という形になっております。どちらが多い少ない、ほぼほぼ同じような件数になっておるところでございますけれども、空き家の利活用というのが進んでいるというところも見受けられるというのもあります。

【会 長】

できたら毎年の統計で、活動が一定反映されて、毎年の統計と比較して、通常ぐらいの状態
新しい新築が起こってんのか、あるいはそうではなくて桃花台、あるいは東部地域のまち活動み
たいな話がある一定効果を発揮して少し移り住んでいる人が多いのかと。その辺りの少し解析を
いただければなあと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

【事務局】

分かりました。

【会 長】

その辺のうまくいったやつも少し見ておく必要があるということだと思います。よろしくお
願ひしたいと思います。

ありがとうございました。

まだその他が残されておりますので、前半部分については、この辺りで議論を終えたいと思
いますけれども、何点か今日出てきた中で非常に重要な視点というのは、一つは和田委員からあ
った横串をどう刺していくかという、これは特にトライアルの活動ですね。その辺りの要するに活
動間の連携みたいなやつを具体的にどう展開していくかという、その辺りを積極的にやってほし
いと。そのときにはいろんな活動を自己完結せずに補完をしてもらうようなことをどんどん発信
していただいて、補完いただけるような形のマッチングみたいな形の一つは採る方法が考えられ
るんじゃないかというような話が1点ですね。

もう一つは、いろんな活動を継続していこうと思うと、ある一定活動費を生み出していくよう
な少し収益性みたいなやつを考えていく必要があると。例えば、これはいろんなところで、マ
ルシェもそうですし、あおぞら市場もそうなんですけど、私のやっているところは一律出店費 500
円を取って運営費を生み出しているんですね。それにプラス、その日の当日販売をしている店に
関しては、その 10%、販売をしていないところは、絵本の読み聞かせをやっているとかいうよ
うなところは基本的には 500 円の出店料だけ。500 円の出店料プラス、販売しているところはある
一定の収益を得ているので販売額の 1 割を納めてもらうと。それを次回のちょっとでも運営費に
充てるような、何かそういう収益性みたいなやつを考えておく必要があるん違うかと。

こども食堂も、多分実費ぐらいを取らないと継続していかないでしょうし、あるいはそっちは
寄附行為みたいなやつをどういう誘発させていくかと。

それともう一つ、経済的持続性、あるいは地域循環経済の中での重要性というのは、地域内の
事業者、あるいは団体、この辺りが具体的にどう連携してくれるのかという辺りが非常に重要な
視点で、それを考えていく必要があるということだと思いますね。

いろんな意味で事業者、今やある意味、社会貢献事業みたいなことを一定やらないと地域にオ
ンできないと。ただし、どんな形で要するに支援できるのかというのをなかなかノウハウをお持ち
じゃないというのがあって、多様な支援の仕方、寄附という行為もあれば、労働力を出すとい
う行為もあれば、企業の持っているノウハウを提供するというのもあれば、資機材を提供する
ということもあったり、いろんな形で支援の形態というのは多様な形態があるので、その辺りを
ぜひとも考えていただきたいと。

あとはいろんな意味で、ちょっとずつですけれども、こども食堂が出てきたり、先ほど小柳委

員のほうから外国籍の子供のケアの問題が出てきたりという意味で、困窮されている方々とか社会的弱者に対しての居場所づくりという活動が少しずつ芽生えていってほしいなあというふうなことがもう一つ希望としてと。芽生えつつあるんでしょうけれども、それをうまくどう育てていくかというふうなことをぜひとも考えていただきたいと。

もう一点、住まいに関してK P Iでは事業がなかったということなんですけど、活動されているインフルエンサーでD I Yの方の講演があったわけですね。この辺りの趣旨というのは、泉北なんかでも今までの団地生活というのは、くぎ一本打てない。それに対して、D I Yで少し若い世代に応じた形での内装の改善とかはできますよみたいな活動というのは非常に大事だと思うんですね。この辺のインフルエンサー、D I Yの創造みみたいな形の反響というのはどんな状態だったんでしょう。

事務局、どうぞ。

【事務局】

この前のセミナーでD I Yクリエイターc h i k oさんから御講義を受けたんですけども、D I Yを通じて情報発信の仕方だとかというところを学んだところでございます。

ただ、c h i k oさん自身が、お隣の春日井市でしたり、愛知県の南知多のほうでも空き家、空き室を使ってD I Y活動をやられているという事例も説明でありましたので、そういった事例も参考にしながら検討していきたいと考えておるところでございます。

【会長】

そういう形でやっていくと、多分この住まいのところに対しても事例が埋まっていくのではないかと。私の活動しているところでは、N P Oの方々がD I Yの家というのをやっていただいているという活動と、もう一つは公社住宅ですけども、無印良品店と連携して新しい内装で若い人の住まいに対応した住戸改善ということをして空き家を減らしていくような活動をされていますので、また参考にさせていただければと。

以上、大体今までいただいた意見ですね。今までの枠組みじゃない発想でいろんなことを考えていただきたいということで、今までで堅いものをつくってしまうよりも、軟らかい形で将来の次の世代のためにどう引き継げるのかと同時に、ただ空き地で置いておくわけじゃないので、暫定利用としての面白さみたいなやつをぜひともチャレンジしていただきたいというのが前半部分の中で出てきた議論かと思います。

抜けているところもたくさんあるかと思いますが、議題（1）についての議論は、これくらいにしておきたいと思います。ありがとうございました。

それでは、残り少しの時間、車両基地以外でも都市マスタープランの改定をされているということで、少し事務局のほうからその他で御報告があるということです。よろしくお願ひしたいと思います。

はい、どうぞ。

【事務局】

その他という議題でございますが、桃花台線旧車両基地用地の利活用の検討状況ということで考えておりまして、説明は先ほどさせていただきましたので、会長が言われましたとおり都市計

画マスタープランの見直しのほうを今現在進めているところでございます。

そちらの検討状況につきまして、所管課であります都市計画課長の丹羽のほうから説明のほうをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

【会 長】

よろしくお願いいたします。

はい、どうぞ。

【事務局】

それでは、私のほうから都市計画マスタープランのアンケートについてを御説明させていただきます。

まず、アンケートの説明に入ります前に都市計画マスタープランについてということで、小牧市におきましては本年度、令和5年度、6年度をかけて都市計画マスタープランの改定を行っております。その中で中身といたしましては、この東部のまちづくりに関連する桃花台における土地利用の方向性、また産業候補地区などの見直しなどを主に中身として改定を行っていかうとしているところであります。

そんな中で市民アンケートを行っております。市全体の中で2,500名の方に行って、回収率は約48.2%という形になっております。また、今回におきましては東部のまちづくりに関連した土地利用の在り方についても検討していくため、東部の方だけのアンケートとして1,500名の方にアンケート調査を行い、回収率は53.5%という回収率でありました。

それでは、市民アンケート調査について説明を申し上げます。

参考資料1のほうをお願いいたします。

まず、市全域を対象としたアンケート結果についてであります。

こちらの調査は、9月1日から9月20日にかけて、小牧市在住の18歳以上の方、先ほど申し上げました1,500名の方に行いまして、回収率は48.2%ということでありました。

回答者の性別や年齢といった基本属性につきましては、年齢では70歳以上の方が最も多く、勤め人の方が多くなっております。居住年数では、20年以上小牧に住んでいる方が最も多くなっているところであります。

7ページをお願いしたいと思っております。

市民ニーズの比較結果であります。

居住区域の環境や日常生活に対する満足度と重要度から得点をつけますと、カタカナのクの鉄道やバスなどの公共交通の便について、オの交通安全対策について、キの地域の防犯、治安対策について、またエの住まいが面する道路をはじめ生活道路の整備状況についての順に必要性が高くなっているところであります。

なお、前回調査についても同じ項目が上位に上がっており、満足度や重要度についての変化はあまり見られていないところであります。

また、東部地域にお住まいの方についての回答についても、クの鉄道やバスなどの公共交通の便についてが非常に高くなっているところであります。

続いて、飛びまして20ページの下段をお願いしたいと思っております。

この設問では、お住まいの地区がおおむね10年から20年後にどのようになっていくとよいか

ということをお尋ねしております。回答者の約 49%が、先ほど申しあげました鉄道やバスなどの公共交通の便がよいまちになればよいと考えておりました、前回調査と比較しますと、福祉施設が近くにあるまちや住宅中心の静かで落ち着いた生活のできるまちが大きく低下しているところがあります。

21 ページをお願いいたします。

本設問は、回答者に同居する小・中学生や高校生がいた場合に併せて回答をお願いしておりますが、小・中学生におきましては、道路や公園など身近な生活基盤が整ったまち、公共交通の便がよいまちの順に高く、高校生につきましては、公共交通の便がよいまち、にぎわいのある商業地のあるまちの順に高くなっておりますが、いずれの世代も公共交通の便がよくなるまちになるとよいと回答した割合が高くなっているところがあります。

続きまして、参考資料 2 をお願いいたします。

こちらにおきましては、先ほど申しあげました東部地域を対象としたアンケート調査結果についてであります。

桃花台地区の商業系の土地利用の検討のため、買物環境などの満足度等についてお聞きしているところがあります。

1 ページにあります調査概要であります。本調査は、先ほど申しあげました 9 月 1 日から 9 月 20 日にかけて、東部在住の 18 歳以上の方から 1,500 人の方に対して行い、回収率は 53.5% あります。

7 ページをお願いしたいと思います。

ページ下段の市民ニーズを見ますと、飲食店などがたくさんあり、にぎわいがある、大規模な店舗が充実し、買物が楽しめる、バス等で行きやすい場所に店舗が集まっており買物しやすいの順に必要性が高くなっているところがあります。

8 ページから 10 ページにかけては、お住まいの地域ごとに集計した結果となっております。

13 ページをお願いしたいと思います。

居住地区内に特に必要だと思う施設や機能では、スーパーや医療施設が高くなっております。

15 ページから 23 ページにかけては、買物で使用する施設や買物目的以外で使用する施設について、またその満足度の結果となっております。

24 ページをお願いしたいと思います。

これからの商業地をどのように誘導・整備していくかという設問では、桃花台センター周辺など拠点となるエリアに商業施設がまとまっていたほうがよい、各地区の居住地の周辺にコンビニや喫茶店など小規模な店舗があったほうがよいなどが多くなっております。

33 ページをお願いいたします。

商業の活性化のため、どのようなまちづくりを行っていくべきかという設問では、ピアーレ、ピエスタ等が立地する桃花台センター周辺における商業の活性化を図る、次いで、商業施設に自家用車を使わなくても行けるように公共交通の充実を図るの順に高くなっているところがあります。

以上、簡単ではございますが、市民アンケート調査の結果報告とさせていただきます。

今後、東部のまちづくりのこちらの方向性につきましては、今後、本審議会でご意見を少しいただきながらというか、もう既に先ほどもいろんな御意見をいただいておりますが、いただきながら次回のこちらの審議会のほうでもアンケート調査等を踏まえた方向性をお示ししながら御意

見をいただいきたいと思っておりますので、また御協力のほうをよろしくお願ひしたいと思ひます。

私からは以上です。

【会 長】

ありがとうございました。

これからこのアンケートなんかを解析して、都市マスに反映されていくということでございます。

何か特にございますでしょうか。

小柳委員、どうぞ。

【小柳委員】

今、小牧市は令和8年を目指して「こまくる」の巡回バス等を含めて交通網の整備をするというような準備をしているわけなんですけれども、実は、今の「こまくる」は非常に便利だし、他にはないものと思ひて、本当に行政に感謝をしておるんですけれども、しかし24年問題とよく言われますけれども、大阪のほうでも金剛交通バスだったかね、あれが12月で廃止をすると。なぜかという、運転手が少なくて安全を確保できないと。行政が支援をしても閉鎖だという形になっておるんですね。

それは大阪の話だけではなくて、やがて小牧市もそういう形になって、例えば自動運転を実証実験するというようなことも進められておりますけれども。そういう状況になるということをやっぱり知らない、僕もワークショップなんかへ出て交通問題で今、皆さんの意見を聞いているんですけれども、実は今、1時間に1便というのを2便にしてくれという声が多いんです。もっと便利にしてくれということをやうんですけれども、実際にそういう状況にするには、行政が幾らお金を出しても計画が出てこないですね。対応できない部分が民間業者にありますね。そういうものをどうしていくかということをやっぱり僕たちが真剣に考えていかないと、アンケートとして取ったとしても、それは出た結果を満足させるような内容にはなかなかかなりにくいという状況が見えているんですね。

したがって、アンケートも大事ですけれども、その辺についてどういうふうを考えていくということをや、どう打開していくかということをや考えないといけないと思ひます。行政もそうですし、私どももそうだと思ひます。そんなことをちょっと思ひました。

それからもう一つ、これは実は民間で開発していますので行政としてはなかなか言いにくいと思ひますけれども、来年の秋には、延びて延びて延びたんですけれども、小牧ハイウェイオアシスというのが完成しますね。そうしますと近くにそういう様々な魅力ある娯楽施設ができたり、子供たちを健全に楽しませる施設もできてくるんですね。そういうものをどのように利用していくかということも、これからの方向づけには必要になってくるような気がします。そんなことをちょっと思ひました。

【会 長】

分かりました。ありがとうございました。

よろしいでしょうかね。

宮脇委員、どうぞ。

【宮脇委員】

ちょっと関係ないことになるんですけど、いいですかね。
その他で発言したいんですけど。

【会 長】

いいですよ、発言してください。

【宮脇委員】

私は公募委員として応募させていただいた宮脇といいます。その公募させていただいた理由、動機ですね。私、もりの学舎というところ、ジブリ公園の中にあるんですけども、そこでインタープリターとして月に3回ぐらい勤務しているんです。そういう中で、「桃花台って、これと似たもの何もないよね」と聞こえてくるんですね。これはちょっと困ったなど。一念発起して、この委員会にぜひ御案内しなきゃいけないなど。

時間も迫っていますので。私がやっていることの中にマメナシの活動があります。このマメナシは、7億年前の遺存植物なんですね。氷河期に残っていた。東海エリアしか残ってない植物なんです。これが東海丘陵要素植物ということで17種類あるんです。そのうちの2つ、トウカイコモウセンゴケとマメナシがあるんです。このマメナシは、土岐のある方は「小牧にはマメナシがあつてうらやましいです」と。だから、何もないじゃなくて、うらやましがられているぐらいなんです。だから、ぜひこれを。

それで、企業にも協力いただいて協賛していただいているんですけども、これは3年前からやらせていただいて、今から花が咲かないのに日が決まっているんですね。来年の3月29日ということで、観察日がね。そうすると、花が咲かないのに協賛金ということになりますと、なかなか企業の方も首を縦に振ってくれない。私のほうでは1週間、3月の末から4月の頭までの1週間をお花見ウィークということで、この機会に飯田市のハナノキから桑名市のイヌナシまで29市町村が絡んでいる、これがこのところに東海丘陵要素植物があるんです。その保全活動をされている方が、パネル展を桃花台でやったらどうかと。そうすることによって皆さんもパネルに自分たちの情報、例えば小牧が外へ行くときは、しのおかの桃、それからブドウ、そういったものを特産品として紹介していくと。だから、飯田市が来るときには、市田柿だとかリンゴ、「シナノスイート」とか、そういうものを展示していただくと。

だから、何件かに私打診しましたら、ぜひ行きますよと言ってくれているんですけども、これは1人ではなかなか、ここの観察会は1人でできますけれども、ほかのことはできない。ぜひこれ皆さんにやっていただきたいなど。

それであと、小柳委員がやられている信長の献上品のマクワウリ。これは小牧の特産品としていただきたい。

【会 長】

申し訳ないですけど、簡潔にお話しただければ、時間も迫っております。

【宮脇委員】

じゃあ以上で結構です。ありがとうございました。

【会 長】

やはりプロモーションの部会もありますけれども、桃花台独自のものをどう発見していくか、あるいは東部地域全体としてどう独自のものを発見していったら、それをプロモーションにどうつなげていくかという視点は非常に大事で、その部会もごさいます。

いろんな意味で、今、宮脇委員なんかの情報を一体どこに持っていったら皆に伝わるのかと、この辺りも少しお考えいただければいいと思うんですね。一番いいのは、プラットフォームにその情報を投げてもらうというのが一番いいんだと思うんですけども、何かいろんな皆が持っている情報をどこに投げたら一番皆に伝わるのかというのを考えていただければいいんじゃないかというようなことやと思います。ありがとうございました。

よろしいでしょうかね。

(挙手する者なし)

あとは、小柳委員の話の中で言っていた公共交通に対する考え方、これは国のほうでも乗合タクシーとかいろんな制度を早急にという話が出ておりますけれども、個別公共交通、この辺りをどう考えていくのかという辺りが非常に重要な転換期に来ていますので、今までの路線バスとか有償輸送とかいう話ではない個別の公共交通というのをどう考えていったらいいかと。これは地域で支え合う交通の仕組みですけども、その辺りも非常に重要な視点ですので、よろしくお願ひしたいと思います。

あとは、よくにぎわいにぎわいと商業施設ばかり出てくるんですけども、先ほど言いましたように、立地適正化計画なんかの都市機能誘導区域の中での重要性というのは、生活支援機能、交流機能もその一つですけど、そういう機能と商業施設がどう一体化するかというような単独機能ではないにぎわいということが求められていますので、その辺りもぜひとも考慮いただきながら展開していただければと。

それから、アンケート調査というのは、どこかで択一式とかになってきて、複合的なところの答えがなかなか出てこないもんですから、その辺を少し注意して読み込んでいただければと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

よろしいでしょうか。一応予定しておりました案件は全て終了したかと思ひます。

【和田委員】

1つだけ。

【会 長】

はい、どうぞ。

【和田委員】

すみません、最後に。マスタープランの計画を立て直されるということなんで、今年、1つだけ、空家特措法という法律が変わります。12月13日に施行される予定です。ここで活用促進区域というのが指定できるようになります。これのガイドラインというのがもう出てきますから、い

わゆる空き家を使った特区をつくることができる。例えば一種低層地域に店舗を呼び込んだりとか、建て替えができなかったところの、接道のできなかつたところに建て替えができるとか、こういうふうなものができますので、そういったところも考慮して、せつかくある新しくできるプランなので、マスタープランとか、今後の桃花台の活用促進区域に指定していくとか、そういったことがあったらいいかなというふうに思います。

【会 長】

ありがとうございます。

空き家問題というのは、やはり避けて通れない問題で、空き家、空き室の有効活用みたいなプロジェクトが何個か出てくるといいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

よろしいでしょうか、皆さん。

(「はい」の声あり)

ありがとうございます。

私のほうでお預かりしました議題(1)、議題(2)は終了したかと思ひます。円滑な議事進行に御協力いただきまして、ありがとうございます。

皆さん、どんどん発言いただけるほうがいいので、どんどん発言いただけるようなことの覚悟でここに参加いただければと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、事務局のほうにお返ししたいと思ひます。

【事務局】

増田会長、ありがとうございました。

委員の皆様、本日はお忙しい中、当審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございました。

お帰りの際は交通安全に十分気をつけていただきますよう重ねてお願ひ申し上げます。

それでは、以上をもちまして第9回小牧市東部まちづくり審議会を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。